

大修館英語通信

What's New!

4

April 2025
No. 9

特集

改訂版教科書，ここがおすすめ

CROSSROADS ENGLISH COMMUNICATION I Revised
PANORAMA ENGLISH COMMUNICATION 1 Revised
Genius English Logic and Expression I Revised

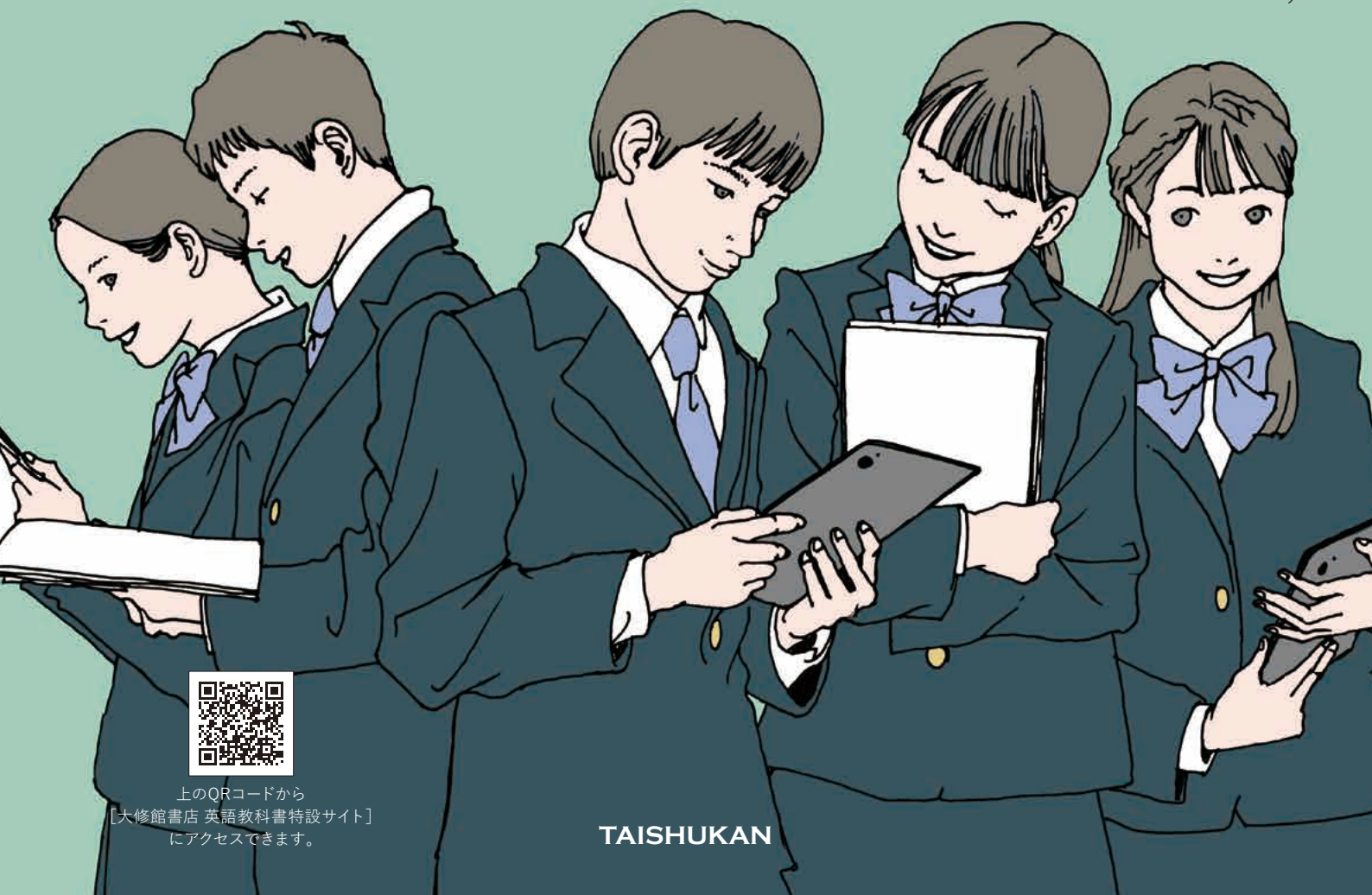
扉写真 河西遼…3

村野井仁 / 松尾美幸 / 編集部…4
江原美明 / 青山良輔 / 編集部…8
田邊祐司 / 小林大介 / 編集部…12

連載

巻頭エッセイ「わたしの英活」 原昌宏…2
SLA 研究にもとづく英語学習の動機づけのすすめ 廣森友人…16
Question Box：英文法の「なぜ」？ 朝尾幸次郎…17
教育ニュース / ホット1コマ あずきみみこ…18
大修館 BOOKSHELF 萩野俊哉 / 和泉伸一 / 八木克正…19

リ
ニ
ュ
ー
ア
ル
し
た
教
科
書
で
，
よ
り
充
実
し
た
授
業
を



上のQRコードから
[大修館書店 英語教科書特設サイト]
にアクセスできます。

TAISHUKAN

わたしの英活

No growth without a dream

夢なき者に成長なし

原 昌宏 (株式会社デンソーウェーブ)



小学6年生の時にアポロ11号が月面に着陸し、人類が初めて月に降り立ったのをテレビの生中継で見て、科学技術の素晴らしさに感動しました。理系が好きだったので、科学技術に係わる職業に就きたいと思いました。中学に入ると、数学、理科だけを勉強するようになり、また物作りが好きで、プラモデルを買って自分好みのジオラマ作りに熱中しました。この頃に、科学技術を勉強し、世界にない物を発明できるエンジニアになる夢を持ちました。高校、大学は夢の実現のために必要な数学、物理、電子工学を一生懸命に勉強し、英語などの文系の学科の勉強は殆どしませんでした。その甲斐あって、希望通り電子工学のエンジニアになりました。

会社に入ると、世界中の人が使う製品を開発し、世の中を快適にしたいと夢を膨らませました。しかし、これまで好きなことしかしてこなかったもので、夢が実現できるか不安になりました。そこで、偉人たちは夢をどのように実現したか調べてみると、幕末に「松下村塾」を開いた吉田松陰が唱えとされる「夢なき者に成功なし」という言葉がありました。この言葉は「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし」をうけています。夢を実現するには、失敗を恐れず実行することだと悟りました。私の夢

は新しい製品を開発して、世界中の人に使ってもらうことなので、世界中の人が何を求めているか知る必要があります。嫌いで不得意な英語を勉強し始めました。なかなか上達しませんでした。なんとか英語の文章を読めるようになりました。そして、海外の情報雑誌や着目されている技術雑誌などを読んで世界が期待している製品や技術を知り、1994年にQRコードを開発しました。

QRコードを開発した後も、世界に広げるために海外に行く機会も多くなりました。2年前にインドの独立の父であるガンジーが生まれたグジャラート州に行き、そこでガンジーの名言を聞きました。What is your dream, something is what you intended, if it even has firm, will surely road is opened. (あなたの夢は何か、あなたが目的とするものは何か、それさえしっかり持っているならば、必ずや道は開かれるだろう。) ここでも、夢を持つこと事の大切さを再認識させられました。高校生の皆さんにも、ぜひ夢を持ってほしいと思います。夢を持てば必ず成功するわけではありませんが、確実に言えることは、No growth without a dream (夢なき者に成長なし) です。私もQRコードを世界中にもっと発展させるためにも、英語を勉強し、世界の人ともっとコミュニケーションを取れるようになりたいと思います。

Profile

原 昌宏

エンジニア。東京都生まれ。1980年に日本電装（現デンソー）に入社し新規事業に従事する。現在もコンビニで使用されているバーコードスキャナやOCRを開発した。この経験から、情報化時代に対応できる製品を開発し、世の中を変えたいと思い1994年にQRコードを開発した。その後QRコードの読み取り装置や新しいQRコードの開発とその用途開発に取り組んでいる。また、新規事業のノウハウを若者に伝えるために、2024年から福井大学客員教授、名古屋学院大学特任教授を兼務している。



(<https://www.qrcode.com/history/>)
※ QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

特集 改訂版教科書，ここがおすすめ

2026年から，改訂版教科書が使用開始になります。

大修館書店の英語教科書の編集委員の先生方に，英語教育の現在，また，改訂版教科書について伺いました。



CROSSROADS ENGLISH COMMUNICATION I Revised

編集代表インタビュー

いろいろな世界につながる「交差点」

村野井 仁（むらのい ひとし）

東北学院大学教授

CROSSROADS ENGLISH COMMUNICATION 編集代表



2026年度から、改訂版教科書が使用開始になります。CROSSROADS ENGLISH COMMUNICATION の編集代表である村野井仁先生に、英語教育の現在、改訂版教科書について伺いました。（聞き手：編集部）

—— 現行の課程が始まって4年目になりますが、この間高校の英語教育にどのような変化があったと思われますか。

聞くこと、読むこと、話すこと、書くことを結び付けた統合的な言語活動を中心にすえて授業を展開する高校の先生方は確実に増えてきていると感じます。文部科学省の「英語教育実施状況調査」を見ると、令和5年度は高等学校の英語授業において、およそ50%以上の学校で授業の半分以上の時間を言語活動に充てているという調査結果が報告されています。その言語活動の半分は「聞くこと」「話すこと」だそうです。まだこんなに低いのかという声もあるかもしれませんが、本文を和訳することと文法を解説することにほとんどの時間を費やすような授業は確実に少なくなっていると思います。

—— そのような時代に CROSSROADS は合っているのではないですか。

CROSSROADS ENGLISH COMMUNICATION 編集のコンセプトは当初か

ら「ユーザーの先生方があまり苦勞をせずに、インプットからアウトプットにつながる領域統合型の授業ができるような教科書」というものでした。言い方を換えると、指導過程 (teaching procedure) が教科書紙面に見えるような教科書を作り、先生方が時間と手間をかけて自作のハンドアウトを作らなくても、この教科書にそって授業をしていけば、多彩な言語活動が一杯の英語授業を日々展開できる。それをめざしています。

具体的には、「長文読解」に英語授業のほとんどの時間を費やすような構成ではなく、5領域における技能をバランスよく伸ばすための言語活動を体系的に並べる構成にしました。「聞くこと」、「話すこと（やり取り）」によって題材内容へ導く言語活動から、本文内容に関するまとまりのある文章を理解する“Listen Up”，さまざまな読み方を促す「読むこと」の活動，“Summary”や“Project”によって主に「話すこと（発表）」や「書くこと」の技能を伸ばす活動まで、トピックは一貫させながらも多彩な言語活動が展開できるようになっています。

—— 構成に関して、改訂版は前の版からずいぶん変わりましたね。

現行版では単元を2つのパートに分

けて構成したので、もしかすると言語活動がたくさんあって大変そうという印象を与えてしまった可能性があります。従来の教科書と構成も単元の数も違っていたので、使ってみるにはちょっと勇気が必要だったかもしれません。

改訂版では、より使いやすくするため、2パート構成を見直し、単元の数も7から10になっています。

領域統合型の言語活動を重視する点は変わっていません。構成を整理したことで、探究型の学びの要素を持った“Project”等の活動に、よりじっくりと取り組んでもらえるようになったのではないかと考えています。

—— CROSSROADS を使ってどのような授業をしていただきたいですか。

どう教えるかの前に、何をめざして日々英語を教えるのかというところに、とても興味があります。何をめざすのかによって教え方が全く異なりますね。大学入試を乗り越える力を生徒たちに備えてほしいのか、言語や文化の異なる人たちといろんなことに折り合いをつけながら共に生きていくための力や姿勢を育てようとするのか、めざすものはいろいろかもしれません。もし後者のようなことをめざすのであれば、生徒たちの心に何かを残す深い

ミッフィーとその作者ディック・ブルーナ氏が登場する Unit 7。身近なキャラクターを扱いつつも話題は「共生」などに及ぶ、考えさせる教材です

Unit 7

Dick Bruna and Miffy

Goals of This Unit

- To learn about how Dick Bruna created Miffy.
- To share information about someone who has influenced you through the power of art.




Warm-up

- What kind of art do you prefer? Choose from the list.
(Empathy, creative energy, diversity)
- Have you ever tried to communicate your ideas through art?

Listen Up

1 When you were a child, did you enjoy reading picture books?

2 Listen to the student's presentation in her art class and answer each question.

3 What is the main topic of the presentation?

☐ how a man chose his career ☐ the life of an artist ☐ the history of picture books

4 Complete the timeline by filling in the blanks.

Year	Event
1927	On _____, Bruna was born in the Netherlands.
1951	He began to work for his father's company as a _____.
_____	The first book of Miffy series was published.
_____	He wrote "The last Miffy book was published."
2017	On February 16, he died at the age of _____.

5 Listen to the presentation again and check your understanding with your partner.

Keywords

Looking at the following sentences, match and write the keywords next to their definitions in the blanks 1-4. Then, predict what the next passage is about.

	Keywords
1 empathy	the ability to understand other people's feelings and problems
2	when people agree that an idea, statement, explanation is right or true
3	to say firmly and often that something is true
4	the way someone or something looks to other people

Miffy, a small rabbit with her simple appearance, has attracted many people around the world.

The writer of children's books insisted that considering the size and length of the book is important for children.

Assessing differences in races or backgrounds is illustrated in the story.

How can we express our feelings of empathy toward victims of the disaster?

題材について理解し、その題材について考えたこと、あるいは、さらに自分で調べたことを他者と共有し、伝え合うような授業、つまり統合型の授業を自然と行うようになっていく、そうしなくてはならないのではないかと思います。そんな授業を行う際の支えに CROSSROADS ENGLISH COMMUNICATION I Revised がなってくれば良いなあと思っています。

—— CROSSROADS で学ぶ高校生には、教科書を通じてどんなことを学んでほしいですか。

この世の中にはいろいろな人がいて、頭を抱えるような問題が山のようにあって、それでもみんな一所懸命に課題解決に向かって頑張っているんだということを「英語コミュニケーション」の多彩な題材から学んでほしいと思います。

いろいろな事柄に関して「見方・考え方」を新たに「形成」して、それまでの知識や価値観をガラガラ・ボンと「再構築」してほしいと思っています。

このために改訂版では、高校生に知っておいてほしい題材や、みんなと一緒に考え、意見を交わしあってほしい題材を揃えています。

題材内容に興味を持って言語活動に取り組んでもらえれば、単語や文法事

項はしみ込んでいくはずですよ。そんなふうに覚えたものは長く記憶に残ります。

—— おすすめの教材・ユニットなどを教えてください。

小児がんと闘った少女アレックスのレモネードスタンドの話、2023年に One Life という映画にもなったホロコーストから子どもたちを救ったポーランド人の話など、現行版で好評だったものに加え、対象学年の変更も含めて題材の思い切った入れ替えを行いました。なかでもミッフィーの作者ディック・ブルーナについての話は高校1年生にとって興味深いものではないでしょうか。白黒のミッフィーや耳の垂れた仲間がなぜ描かれているのか、読み取ってほしいと思います。

日本からカナダに移民として渡った人たちが差別を受けながらもフェアプレイ精神を守り続けた野球チーム・バンクーバー朝日の話も元気が出てくる題材です。これも2014年に映画（『バンクーバーの朝日』）になっています。

さらに、改訂版で新たに加えたものとして、AI の時代における外国語学習の意義について考える題材があります。生成 AI がどんどん発達すれば自動翻訳・通訳が今よりずっと自然になって外国語を学ぶ必要なんてなく

なってしまうと短絡的に考える人がいるかもしれませんね。外国語学習はそんな浅いものではなく人間の深いところにつながっていること、つまり、AI がどんなに賢くなっても失われない意味があることを高校1年生の生徒さんたちと一緒に考えるユニットを用意しています。

—— 最後に一言お願いします。

CROSSROADS ENGLISH COMMUNICATION I Revised は、その名のとおり、道の交差点のような教科書です。この教科書を通して様々な人たちの生き方に出会い、いろいろな世界に思いを馳せてほしいなあと思っています。行先の違ういろいろな道を高校生が見つけるきっかけになれば、これほどうれしいことはありません。

—— ありがとうございました。

● 著者紹介

現行課程の検定教科書 CROSSROADS シリーズの編集代表。専門は第二言語習得論、英語教育学・応用言語学。

CROSSROADS ENGLISH COMMUNICATION I Revised

CROSSROADSで「体、頭、心が動く」学び体験を！

松尾美幸（まつお みゆき）

元岩手県立不來方高等学校指導教諭

CROSSROADS English Communication 編集委員



人生で最も感受性豊かな高校生たちが、自由かつ大胆に自分の道を歩み続けるための体力、思考力・判断力、コミュニケーション力を育むには、体、頭、心がフルに動く学習体験が必要だ。それを実現するのが、CROSSROADSの授業空間である。

体が動く学び

高校生が取り組んでいるSDGs関連の探究学習の基盤は、「地球愛」であろう。「こんなに素敵な地球が今、危機に瀕している。どうにかして守らなければ！」と駆り立てる心が学びの原動力、行動力となる。CROSSROADSには、学習者たちの「地球への帰属意識」を喚起する題材が用意されている。例えば、さかなクンの慈愛に満ちた眼差しを通して地球が抱える海洋資源の問題を自分ごととして真剣に考え行動する力を与えるだろう。また、異なる文化的な背景を持つ人々の目に映る日本社会についてのネット上でのやり取りや、それとは逆に異文化社会に飛び込み差別や偏見と闘った日系米国人たちの苦悩に満ちた実話について学ぶ体験は、多文化共生社会を築く主体（agent）として行動する契機となるだろう。

頭が動く学び

CROSSROADSの各ユニットは、学習者の視野を広げ、深く厚みのある思考を促すテーマと言語活動で構成されている。例えば、身近な高齢者を紹介しあうペアワークを導入し、長寿と健康について考え、高齢化社会についてグループで議論する。また、身近なAI活用について意見交換をした後に外国語を学ぶ意義について読んで議論するなど、明確な方向に学びを深められるのもその特長の一つである。生徒たちが絶えず思考し、個性豊かに表現する姿を見守り楽しめるのが、ファシリテーターたる教師の特権である。

心が動く学び

CROSSROADSの教材は、生徒の心を揺さぶり、他者への共感力を育んでくれる。ディック・ブルーナ氏がミッフィー作品に込めた子供たちへの究極の心遣いは、実際に絵本を手にとって読み聞かせし合う体験を通じて生徒の心に染みていく。シンプルなはずのミッフィーの顔をオリジナル通りに描くのが難しい理由も、ブルーナ氏のこだわりを理解すれば謎が解ける。

同様に、高校生たちに馴染み深いキャラクターのパディントンのモデルが誰であるかを読み解けば、そのぬいぐるみの首に掛かっている札の謎が解ける。愛らしくまのキャラクターの背景に、ユダヤ難民を救うために奔走した人物の物語と哀しい歴史があったことを知り、学習者たちは深い感動を覚えるだろう。

また、小児がん撲滅のために自らの命を削りつつレモネードを売り続けたアレックスなどの主人公の生き方も、生徒の心を強く動かすにちがいない。

「良い外国語学習は、優しい人間をつくる」が、筆者の信条である。CROSSROADSで外国語を学んだ高校生たちは、他者と世界のために自らのコミュニケーション力を生かそうとする優しいLanguage Usersへ、そして心技体ともに逞しい地球市民へと必ずや成長してくれると確信している。

余談 この春、勤務校を卒業したCROSSROADS一期生たちは大学入試当日にCROSSROADSを携行したという。小論文、集団討論に、教科書の内容が役立ったとうれしい報告をしてくれた。一生モノのコミュニケーション力を育む「御守」のような存在の教科書であり続けてくれることを願ってやまない。

CROSSROADS ENGLISH COMMUNICATION I Revised

生まれ変わった CROSSROADS

CROSSROADS 編集部

心はそのままに体が入れ替わるストーリーが、映画などがあります。今回の *Crossroads English Communication* の改訂はそのような感じでした。

Crossroads の特色

現行版の *Crossroads* の特色を 3 つ挙げると、下のようになります。

- (1) 言語活動が多彩で、それらが行いやすい
- (2) 生徒の思考や共感を促す教材が揃っている
- (3) 2 パート構成によりトピックを深く学べる

(1) について言えば、村野井仁先生が本誌に書いておられるように、*Crossroads* は当初から「ユーザーの先生方があまり苦勞をせずに、インプットからアウトプットにつながる領域統合型の授業ができるような教科書」を目指して作られました。言語活動が充実しているだけでなく「苦勞をせずに」行えるというのがポイントです。

生徒が熱心にアウトプットするためには、インプットするものがそれに見合った厚みのある内容を備えている必要があります。そのため教材は当初から、松尾美幸先生の本誌記事にあるように、「学習者の視野を広げ、深く厚みのある思考を促すテーマ」で、「生徒の心を揺さぶり、他者への共感力を育んでくれる」ものを選びました。これが特色 (2) です。

(3) が最も目に見える特色と言えるでしょう。*Crossroads* は 1 つの Unit を 2 つの Part に分けてそれぞれに passage (本文) を配するというユニークな構成でした。これにより生徒は 1 つのトピックについて複数の観点から考え、深く学ぶことができます。このコンセプトが悪かろうはずがありません。

Crossroads が CROSSROADS になるまで

Crossroads が素敵なコンセプトと引き替えになくしたものがありません。Unit の数です。1 つの Unit の分量、ページ数が多くなってしまうために、総 Unit 数は 7 つにとどまり

ました。「2 パートから成る Unit が 7 つの教科書」は、少ない学校に、そのユニークさを気に入られ継続採用していただいています。しかし、その一方で、見慣れないつくり戸惑われた先生もいらっしゃるのではないのでしょうか。

そこで、改訂にあたっては「オーソドックスなつくりにし、特色の (1)(2) で勝負する」という方針で作業を開始しました。これが並大抵の作業ではありませんでした。「2 パート×7 Unit」から「1 パート×10 Unit」への変更は、作り直しとほとんど同じです。

あらためて Unit の流れを検討し、さまざまなコーナーを配置していきました。passage 全文を見開きで掲載する“Reading for General Ideas”は新設のコーナーですが、「全体をざっと通読して概要を把握する」という活動は、限られた時間内に多くの語数を読まなければならない共通テストなどに向けての練習になると思います。passage 自体も、その多くは現行版から引き継いでいるものの、総語数の関係でかなりの加筆・書き換えを行いました。Unit 数の増加に伴い、新しい passage ももちろん用意いたしました。

こうして出来上がった教科書は、Revised と銘打っているものの、変更の度合いは「改訂」の域を超えています。教科書名の表記を *Crossroads* から *CROSSROADS* に変えたのはそのような事情を反映させたつもりです。

編集方針や教科書に込める思い、特色の (1)(2) はそのままに、新しい *CROSSROADS* は誕生しました。冒頭の「心はそのままに体が入れ替わるストーリー」さながらに。

オーソドックスなつくりにしたことで、これまで以上に中身で比較検討していただけたと思います。ぜひ教科書見本を手にとってご覧ください。現行版をお使いになったことのある先生におかれましては、中身はほぼ同じで使い勝手がさらによくなったことをご確認いただけると幸いです。

CROSSROADS I Revised のおすすめポイント

- ① 深い考えや他者への共感を促す、選び抜かれた教材
- ② 5 領域の技能をバランスよく伸ばす、多彩な言語活動
- ③ 段階的にレベルアップを図れる、学習しやすい構成

PANORAMA ENGLISH COMMUNICATION 1 Revised

編集代表インタビュー

顔を上げて話そう！ ——自分のことばとして英語を身につけるために

江原美明（えはら よしあき）

武蔵野大学特任教授

PANORAMA ENGLISH COMMUNICATION 編集委員



——現行の課程が始まって、4年目になります。高校の英語教育に変化があったと思いますか。変化があった場合、それはどのような変化ですか？

大きな変化は、4技能5領域にわたる目標設定と、それに基づく指導と評価を行うという意識が高校現場に広まったことだと思います。学校によって生徒のニーズや進路希望は異なりますので、実際の指導や評価の重点には差がありますが、少なくともペーパーテストだけではなく、特に話すこと[やり取り、発表]の評価としてパフォーマンス・テストを実施する学校が増えました。また、教科書本文の扱い方も、内容に関するQ&Aやペアでの内容確認、トピックに関するSmall Talkなど、言語活動を多く取り入れた授業に変わってきました。

——指導する先生方にはどんな指導を心がけてほしいですか？

英語を教える教師仲間という立場から、「生徒を教える最適任者は先生方です」と声を大にして伝えたいです。小学校に外国語（英語）が導入されて以来、小学校の授業を拝見する機会が増えたのですが、児童のことをよく理解し、クラス内に助け合いの文化、間違ったことを言っても恥ずかしい思いをしない雰囲気を作っている先生の授

業は、児童も先生も生き生きと言語活動に取り組んでいます。中学、高校と上がるに従い、英語の学習量や難易度は増していき、教師に求められる成果へのプレッシャーも高まります。でも英語の指導の基本は、英語を通して学び合うクラスの雰囲気作りだと思っています。それが出来るのは、生徒たちを今現在教えている先生方しかいないのです。毎日が順調とはいかないでしょうが、生徒たちのニーズを捉え、普段から日本語でも英語でもやり取りしながら、充実した日々を過ごしていただきたいと思います。

——教科書で学ぶ高校生には、教科書を通じてどんなことを学んでほしいですか？

教科書に登場する日本や世界の人々の営み、動植物、自然のすばらしさ、人間が解決すべき課題、困難を克服してきた人々の軌跡に触れながら、①自分の考えや意見を持ち、②学んだ英語を使って自分の言いたいことが少しでも多く言えるようになり、③英語が分かり、英語で表現し合えるようになることの楽しさを感じてほしいです。同時に、何事も楽をしていては習得できないということも学んでほしいと思っています。私は中学生の頃から学習法に興味があり、どうしたら「効率的

に」学べるかについていろいろな本を読みました。でも結局は、楽な学習法よりも、いかに「面倒くさい」学び方をしたか、が学習の効果に結びついていてと感じることも少なくありません。たとえば最近、英語のテストで好成绩をとった学生に、単語はどう勉強したのかと聞くと、「書きながら」「音声を聞いて何度も声に出して発音しながら」「自分で書いてそれを携帯で写真に撮り、寝る直前に復習しながら」「Quizletで問題を作って」など、学生なりに面倒くさい学びをしていました。こんなふうに自分に合った苦勞をしながら英語を学んでほしいです。

——改訂の目玉、改訂版の編集にあたって心がけた点、苦勞した点を教えてください。

今回の改訂版では見やすさと学びやすさをさらに追求しました。採用校の先生方の声を参考に、PANORAMAの当初からの編集方針である「教えやすく、学びやすい教科書」となるよう心がけました。

例えば各レッスンの扉ページは思い切ってシンプルにしてその分写真を追加し、ゴールの確認やOral Interactionをより簡単にできるようにしました。また、各パートのThe Gistでは、語数や空所の数を3/4程度に減ら

LESSON 2 My Experience Abroad では、3 人の実在の大学生が、海外での経験と発見について語ります。高校生にとって年齢の近い大学生が一人称で語る、「カルチャーサプライズ」に満ちたオーセンティックな教材で、外国語を学ぶ意味について考えます。

My discoveries in Canada (Ryu)

Last year, I studied English in Vancouver, Canada, for one year. English is spoken worldwide, so I wanted to improve my English.

I realized two things there. First, I could learn English through sports. Some young people often played beach volleyball in a waterfront park near my apartment. I asked, "May I join you?" We became friends, and I spoke a lot of English while I played sports with them!

Second, I knew very little about Japan. In my language school in Vancouver, my classmates were mainly from Asia and Latin America. They knew a lot about their home countries. A Korean classmate told me about his country's history, culture, and his opinions on some historical events. I couldn't do that.

I'm going to learn more about Japan and have my own opinions about different issues.

Key Ideas

- Why did Ryu want to improve his English?
- How did Ryu learn English in Vancouver?
- What did Ryu realize in Vancouver?

The Gist

Ryu went to Canada for one year to () his English. He played sports with young people there and learned a lot of English. He realized that he didn't know much about (). His language school classmates knew a lot about their countries and had their own ().

Think and Talk

A: So, if you have a chance to talk about Japan to someone from abroad, what will you talk about?

B: I will probably talk about Japanese (culture / history / technology /).

A: I see. Can you give me an example?

B: Well, I can talk about ().

Vocabulary

English is spoken worldwide, so I wanted to improve my English.

● "Is this seat taken?" "No, Go ahead."

し、生徒が声に出して読みながら英文の内容がずっと頭に入るようにしました。Grammar のコーナーもよりシンプルに、短時間で確認できるようにしました。さらに各課末の言語活動もより教えやすく学びやすくなるよう随所に工夫を重ねました。各課の CAN-DO 目標である Test Your Skills は、現行版に引き続き共通テストをイメージした内容となっています。

苦労した点は、教科書本文の最終調整です。編集委員のネイティブ・スピーカー 2 人と現場で英語を教える日本人編集委員との意見をすり合わせながら、生徒への教えやすさを維持しつつ、実際に使われる現代的な英語表現をいかに残すかの判断を、すべてのレッスンについて行いました。

PANORAMA が提供する豊富な音声教材や言語活動を通して、授業中に生徒が「顔を上げて英語を話す」機会を増やすことで、自分の頭の中にある英語を引き出しながら発話する時間が増え、英語の表現を覚えることができ、英語が少しずつ自分のものになっていきます。英語が話せるようになり、同時にテストの点もとれるようになれば、生徒も先生もハッピーですね。

—— おすすめの教材・レッスンなどを教えてください。

どのレッスンも、生徒の日常生活と結びつけて学べるような題材です。で、先生方や生徒のみなさんの興味に応じて、軽重をつけて学ぶのが効果的だと思います。巻末の「文法を使って話してみよう」は、まずディクテーションで疑問文を書かせ、そのあとペア・ワークをするという方法もオススメです。

おすすめの教材は LESSON 2 My Experience Abroad です。現行版では教科書のキャラクターがそれぞれの英語体験について話すというレッスンでしたが、改訂版では、私の教え子の大学生 3 人の海外での体験談に変更しました。世代の近い大学生が語るカルチャーサプライズに満ちた実体験は、高校生に興味を持ってもらえると思います。その他のレッスンも、高校生を勇気づける言葉満載の LESSON1 から地球環境の保護に関する LESSON 10 まで、著書一同、編集部、そして現場の先生方の声が反映された改訂になっています。

—— 最後に読者の方へのメッセージが何かありましたらどうぞ。

今回のインタビュー記事のタイトルは、『顔を上げて話そう！—自分のこ

とばとして英語を身につけるために』となっています。実は今から 17 年前、大修館の機関紙に 1 ページのエッセイを書きました（「英語を身につける？江原」で検索すると出てきます）。当時の考えは今でも変わっていませんが、「英語を身につける」ための必須条件が「顔を上げて（英語を）話す」ことだとあらためて強く感じ始めたのはここ 10 年くらいです。その間、多くの先生方の授業を拝見する機会があり、生徒の様子を見るにつけても、顔を上げて話す（当然アイコンタクトをしながら話す）機会が多い授業では、生徒たちが学んだ英語をしっかりと身につけているな、と感じたものでした。ぜひ、この「顔を上げて話そう」を試してみてください。私も引き続き実践を続けます。

—— ありがとうございました。

● 著者紹介

神奈川県立外語短期大学准教授、国際言語文化アカデミア教授を経て、2021 年 4 月から現職。PANORAMA シリーズ編集委員。研究分野は外国語としての英語学習方略、英語教員研修など。

PANORAMA ENGLISH COMMUNICATION 1 Revised

学びのプロセスから気づきの瞬間を創り出す教科書

青山良輔（あおやま りょうすけ）

ブリティッシュコロンビア大学・言語リテラシー教育研究科・ティーチングアシスタント
（元 神奈川県立横浜国際高等学校教諭）

PANORAMA ENGLISH COMMUNICATION 編集委員



人工知能 (AI) を使用したテクノロジーの目覚ましい発展は、「英語教育は何のためにあるのか?」という根本的な問いを再考する大きな契機を与えているように感じます。「できたか、あっていたか」という結果ベース・スキルベースのアプローチを超えて、学びのプロセスを重視する。「いま・ここ」で、どう教材と向き合い、クラスメートと何を学び合うか。色々な人が集まる教室だからこそ可能な英語レッスンを、PANORAMA で創り上げることが可能です。

トピック・人物別のタスクで学びのプロセスを深める

PANORAMA は、Part 毎に別のサブトピック・人物が割り当てられているレッスンが豊富です。これは、ジグソーリーディングなどのインフォメーションギャップ型の活動を導入しやすいことを意味します。例えば3人のグループで、それぞれが異なるパートについて読み、内容のサマリーや自分の考えをシェアしたりするといった活動です。こうした分担型タスクは難易度も上がりがちなのですが、PANORAMA では、パート毎の要旨を穴埋めで確認する The Gist やグラフィックオーガナイザーを使って本文の内容を整理する Comprehension Check (CC) B-1などが良い足場がけとなっています。CC B-2の写真描写タスクは、グループ内でそれぞれ別の写真を選んでタスクに取り組むと良いでしょう。

こうした分担型タスクを通して、生徒は「知っていること / 知らないこと」「できること / できないこと」について振り返り、「どうやったら伝わるか」を考える機会を得ます。生徒同士で内容のフィードバックを交換し合ってもらうことで、より意識的な振り返りの機会になるでしょう。「できると思っていたのに、あまりできなかった」、またはその逆から、何を学び、どう次に繋げていくかという視点を育む機会を作りやすい教科書になっていると思います。

「他者性」を通じ多様な考え・多様なあり方への意識を育む

一つの正答ではなく、学びのプロセスやクラスメートとの協働を通じた学びを重視することで見えてくるものが、「他者性」への気づきや意識です。英語教育ではアウトプットの観点から「自分の声」を持つことが強く求められますが、さまざまな活動を通じて「他者の声」に触れ、多様な意見や考え、価値観の相違、新たな視点を見出すことも外国語学習の醍醐味でしょう。先ほど触れた分担型タスクや、オープンクエスチョン型で自由度の高いタスクで、クラスメートとの自由なやりとりを通じて、「他者の声」への意識を促すことが可能です。AIを使った学習、サイトトランスレーションやシャドーイングといったトレーニング的な活動だけでは、こうした「他者性」への意識を育むことはなかなか困難です。クラスメートとのリアルなやりとりを通じて、コミュニケーションの成功・失敗体験を重ね、一方通行ではない「対話」をより上手にできるようになってほしいと思います。

また、PANORAMA は生き方や共生のあり方など、「人」にフォーカスしたレッスンも豊富で、多様な背景を持つ著名人が登場します。ニュース、記事、動画などを活用し、その人物、歴史背景、文化について、英語を通じて学ぶ機会も作りやすいと思います。こうした機会からも「他者性」への意識を育む小さなきっかけを見出せるでしょう。さらに、Lesson 2では、いわゆる著名人ではない、生徒にとって身近な「実在の大学生」が登場します。私は、学習者としても、教員としても、このようなレッスンに出会ったことがなかったので、どのようにこのレッスンが使われ、どんなメッセージとなり、どんな反応があるのかとても興味があります。私も、全ての人がそれぞれの人生における主人公であること、多様な考え・多様なあり方への意識を育むような教育を、英語教育だからこそできる方法で実践していきたいと思いますし、この教科書でそうした教育が可能だと信じています。

PANORAMA ENGLISH COMMUNICATION 1 Revised

新しい時代の英語学習に寄り添う 改訂版 PANORAMA



PANORAMA 編集部

PANORAMA が改訂版になりました。カモメの表紙が目印です。オーソドックスな 1 見開き 1 パートの構成ながら、教えやすく、かつ現代的な英語表現を用いて書かれた本文と、充実した活動からなる本教科書は、英語で自分の考えを言える学習者が育つ授業を可能にします。改訂の 3 つのポイントをまとめました。

ゴールが見えるから学びやすい

レッスン冒頭には 4 技能 5 領域の達成目標と、レッスンのターゲットタスクを記載。バックワードデザインを用いた構成で、学習効果を高めます。



「知りたい、学びたい、伝えたい」意欲のわく教材

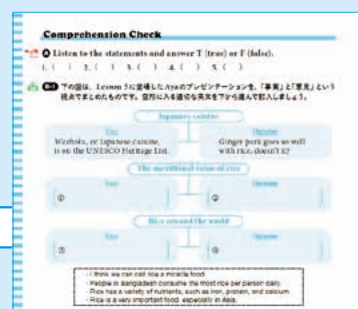


SDGs と関連させながら、生徒が身近で思考しやすい題材を収録しています。QR コードを発明した原昌宏さん、女優のエマ・ワトソンさんの名言や、実在の大学生 3 人が海外での発見と体験を語るオーセンティックな教材などを新たに追加しました。



表現活動をサポートする足場がけが充実

自分のことばで発信しやすいように、表現活動への足場がけをていねいに行っています。本文の内容を自分のことばでリテリングする活動のためにグラフィックオーガナイザーを活用して内容を整理する「Comprehension Check B-1」をご用意。また、リテリング活動自体にも、書き出しのフレーズやキーワードを示し、表現の手助けをします。



PANORAMA 1 Revised おすすめポイント

- ① 文字と図版が大きくなり見やすくなった紙面
- ② バリエーション豊かで場面に応じて取捨選択いただける豊富な 4 技能 5 領域の活動
- ③ 本文や活動の中で、表現に役立つ汎用性の高い語彙を採用



Genius English Logic and Expression I Revised

編集代表インタビュー

日々の授業で小さな成長を実感できる学習体験を

田邊祐司 (たなべ ゆうじ)

専修大学教授

Genius English Logic and Expression 編集代表



2026年から、改訂版教科書が使用開始になります。Genius English Logic and Expression 編集代表の田邊祐司先生に、英語教育の現在、改訂版教科書について伺いました。

—— 現行の指導要領が始まって4年目、高校の英語教育に変化があったと思いますか。

「ある」(現在進行)と感じています。ただ、それが全国的なトレンドかと言い切れるかという自信はありません。

研修や授業参観で先生方「ソフト」の面では「4技能5領域」のもと、スピーキング指導の「再定義」が求められ、相手や状況を意識した双方向の活動としての指導が重要視されるようになったと聞いています。「ただ話されば良い」指導から学習指導要領の「目的や場面、状況に応じて英語を用いる」ことを実現する具体的なスピーキング指導に変化しつつあるのだと思います。

一方、いわゆる「ハード」面では、一人一台端末の普及とAI技術の進化は広がってきていると言えます。教員研修で授業を参観した際に、生徒の机上から辞書が姿を消している光景に出くわし、驚いたことを覚えています。もちろん、生徒が辞書を使わなくなったわけではなく、その機能が端末内に

統合されていると考える方が正解でしょう。

—— 先生方にはどんな指導を心がけてほしいですか。

「指導」と言うと、教える側と教えられる側という固定的な関係の、教える側からの言葉なのは明らかです。しかし、これからの教師には、生徒たちの「学びの中」に入り込み、その中で彼らを inspire し続け、「学びの渦」を巻き起こす存在であってほしいと切に願います。先生方の生きる姿勢や英語への情熱(本当に大切!)は無理に表現しなくても自然に滲み出るものであり、それが生徒たちに影響を与える力となります。

かつて恩師は、教師の教育に対する心構えや雰囲気から滲み出るものを「所与性」と呼び、生徒がそれを感じ取り、自らの学びに取り込むことを「所与性の認識」と表現されていました。先生方が「所与性」を持ち、生徒たちがそれを敏感に「認識」できる環境を作ることが、新たな可能性を広げる鍵になることを先生方にはお伝えしたいと思います。

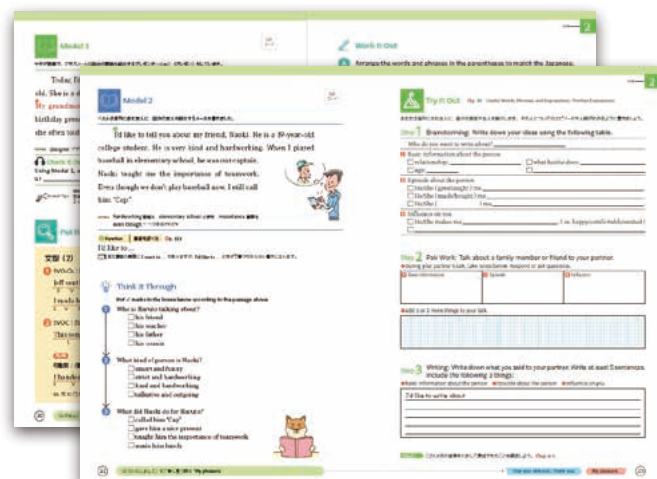
—— 高校生には教科書を通じてどんなことを学んでほしいですか。

以前、現行版を紹介した際の記事で

は、英語の standard に基づいた物の見方、考え方、そして表現の仕方を学ぶことがライティングやスピーキングにおけるキモであると述べました。この考えに対する想いは4年が経過した今も変わっていません。しかし今回、さらに付け加えたいのは、エラー(error)や失敗を恐れずに英語をまず「使ってみる」という姿勢の大切さです。かつて Wilga Rivers が英語学習過程を skill-getting と skill-using とに分け(Teaching Foreign-language Skills)、外国語を習得するには両者の絶え間のない「往復活動」が要諦であると看破しました(現在は input と output が一般的)。ともかくもエラーにより学習者は気づき、修正をおこなうわけで、これは健全な learning process である(中間言語仮説)ことを生徒には何度も、何度も伝えてほしいと思います。

Genius English Logic and Expression I の改訂版は、すべての Unit が Describe the Picture と One-Minute Chat から始まります。英語が苦手な生徒にとっては、これが少し高いハードルに見えるかもしれませんが、最初からうまくできる必要はまったくありません。むしろ「できない」「不安定な」状態からスタートすることこそ肝要なのです。生徒たちには盛大にエラーしてもらって構いません。上述の

複数の Model 文を通じてターゲット文法やトピックでよく使われる表現、話題の展開の仕方を学んだあと、それらを活かして実際に自分で表現する言語活動を行います。



ように言語の習得は失敗の連続の上に成り立っているからです。

スモールステップで着実に英語を身につけていく。そして、Unit 後半にある言語活動 (Try It Out) に取り組むことで、小さな成長を自ら実感できる学習体験を積み重ねてほしいと願っています。また、先生方にはエラーに対して寛容な授業の雰囲気を作り、生徒たちが try することに前向きになれる環境を提供していただければ、とても嬉しく思います。

——教科書の改訂にあたって心がけた点を教えてください。

現行版をお使いの先生方から寄せられた「声」、「フィードバック」をもとに、現場の先生方が「本当の意味で使いやすい、授業がしやすい教科書を！」ということを最優先に、編集メンバー全員で協議を重ね、教材としての完成度をさらに高めるよう努めました。

現行版ではなるべく幅広い層に対応できるよう、情報を豊富に盛り込む構成にしましたが、その結果として「難しい」という印象を与えてしまったという反省点がありました。そこで、今回の改訂では、教科書紙面に余裕を持たせることを念頭に、一部の内容を Unit 末や巻末に移す形で調整を行いました。

これにより、教材全体の情報量はキープしつつ、教科書そのものはよりシンプルで見通しの良いものになったと考えております。先生方にとっては、無理なく授業を進められるようになり、授業の柔軟性や自由度が向上したのではないかと期待しています。

今回の改訂版は現行版以上に幅広い層のニーズに応えられる 1 冊に仕上がったと自負しています。

——アウトプットの力を伸ばすために工夫した点を教えてください。

私は日々の授業において「?→!」を常に意識しています。この「?」は生徒が受け取る問いかけや発問を、「→」は生徒の思考や体験のプロセスを、「!」は「わかった!」「できた!」という生徒の理解や達成の瞬間を表しています。この 3 要素を教科書の構成にも取り入れることを意識しました。

アウトプットとは、ただ何かを答えるだけではなく、思考や体験を前提とするものです。例えば、与えられた話題について、まずは自分自身で深く考えたり（時には調べたりしながら）、周囲と情報を共有し、そこからさらに再考を重ねる。このサイクルを通じて、生徒は物事を自分ごととして捉える力を身につけ、質の高いアウトプットへとつなげていくことができます。

Genius English Logic and Expression I Revised では、言語活動 (Try It Out) に至るまでのプロセスの中で、この思考のサイクルが循環するように工夫を凝らしています。

“You are the main character of your life.” という英語表現がありますが、生徒たち自身も、そして指導にあたる先生方も（もちろん私自身も）それぞれが自分の人生の主人公です。英語学習においてもまた、生徒一人ひとりが「学び」という物語の主人公であるべきです。この教科書を通じて、生徒たちがそれぞれの英語学習の物語を紡ぎ、その先にある目標へ向かって大きく羽ばたいてくれることを心から願っています。

——ありがとうございました。

●著者紹介

専修大学文学部・大学院文学研究科教授。博士（教育学）。専門は英語教育学（英語音声指導・学習）、応用言語学、日本英語教育史。著書には『句動詞のトレーニング―「普段着の英語」を身につけよう!』（大修館書店）、『日本人は英語の発音をどう学び、教えてきたか：英語音声教育の小通史』（研究社）などがある。

Genius English Logic and Expression I Revised

変革期に応える、「洗練」された Genius —— 教師も生徒も使いやすい新デザイン

小林大介（こばやし だいすけ）

静岡市立高等学校教諭

Genius English Logic and Expression 編集委員



現在の指導要領が始まって4年目、高校の英語教育の変化

日本の英語教育は、その歴史を振り返ると常に変化を続けてきましたが、現在は特に大きな変革期にあります。一人一台端末の整備や学習者用デジタル教科書の普及といった学習環境の変化に加え、4技能から4技能5領域への移行など、指導要領の変更が教育現場にこれまで以上のインパクトを与えています。特に観点別評価の導入は、新たな評価方法や授業スタイルを模索するきっかけとなりました。導入から4年が経ち、一定の基盤が築かれつつある一方、評価の在り方や教員の負担軽減といった課題も依然として残されており、今後の改善が期待されています。

Genius I Revised 改訂のポイント

こうした状況を踏まえた上で Genius English Logic and Expression の改訂を一言で表すなら、それは「洗練」です。教科書を手に取っていただくと、文字や写真が大きくなり、余裕のある紙面になったことに気づかれるでしょう。情報量は現行版と同等に保ちながら、内容を整理し、構成を工夫しました。たとえば、「Further Expressions」（活動に使える表現）や「Check It Out」（学んだ内容を生かしてアウトプットする活動）を Unit 末に新設した語彙リストとともに掲載することで、授業で扱う内容が明確になり、より使いやすいデザインに仕上がっています。教員にとっても、生徒にとっても、授業を進めやすい一冊になっています。

Genius I Revised の特色

本書の魅力は、何と言っても「Model」（モデル文）です。自然で英語らしい表現でありながらも語彙レベルが調整されており、暗唱教材としても優れています。音読を繰り返せば基礎力をしっかりと築くことができます。さらに今回の改訂では、一部のモデル文を最新の話題に合わせて刷新しまし

た。質の高いインプットは次のステップへとつながります。

Genius I Revised を使った授業の進め方

授業の導入として最適なのが Unit 冒頭の写真を活用した Describing 活動です。改訂版では写真が現行本よりも大きく見やすくなり、生徒同士で写真を見せ合いながらのペア活動がしやすくなりました。写真の注目すべきポイントが分かりにくい場合は、「Describe the Picture」（写真を英語で表現する活動）の質問を活用することで、スムーズに活動を進められるでしょう。写真には人や生き物が作業や動作をしている場面が選ばれており、外部試験対策としても役立ちます。

改訂版では、授業展開のしやすさをさらに追求しました。たとえば、Model 2 のページはあえてモデル文と「Think It Through」（モデル文について整理する活動）のみで構成されており、生徒が情報過多にならないよう配慮されています。また、その隣のページには現行版と同様に「Try It Out」（単元のまとめの活動）が配置されており、支援が必要な生徒は見やすくなった Model 2 を参考にし、発展的な学習を目指す生徒は新しいテーマに挑戦することもできるなど、幅広い層に対応しています。

さらに、本書の「Try It Out」には、授業のマンネリ化を防ぐ工夫がされています。プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート、ライティングをバランスよく配置し、「Try It Out」の形式をそれぞれ工夫することで、学習者に新たな学びの刺激を与えられるよう配慮されています。教科書の Unit 構成は全て同じ形式のほうが進行がスムーズという意見もあるかもしれませんが、1年間同じ形式で進めると授業が単調になりがちです。本書は、生徒が飽きることなく、4技能5領域を効果的に習得できるよう設計されています。

Genius English Logic and Expression I Revised

よりわかりやすく、より使いやすく。

新しい Genius

Genius 編集部

生徒には、「実際のコミュニケーションの場面で活用できる英語力」を身につけさせたいけれど、1年生のうちは英文法もしっかり扱いたい。そんな先生方のご要望に応じてきた教科書 Genius I。

今回の改訂では、紙面のデザインを刷新し、文字や図版を大きくすることで、生徒には親しみやすく、先生には使っていただきやすい教科書になりました。

教科書を順序通りに進めるだけで、丁寧な「インプット」とスムーズな「アウトプット」ができる Genius I Revised のポイントをご紹介します。

文法

Input

Model 1

Today, I'd like to talk about my grandmother. She is 74 years old. She is a designer and is still working. I really look up to her. My grandmother made me this ring. She gave it to me as a birthday present, so it's very special to me. When I was a child, she often told me fairy tales. She always makes me happy.

notes: designer デザイナー look up to ... 尊敬する fairy tale(s) 魔法話

学習する文法事項は、色文字になっていてわかりやすい。

Unit で扱う文法事項を押さえたオリジナルのモデル文で、自然な文脈の中で文法を学びます。

Put It into Focus

文型 (2)

① SVO・OI: 「S は O₁ に O₂ を V する」や 「S は O₁ のために O₂ を V する」などの意味を表す。

Jeff sent her a present. (Jeff は彼女にプレゼントを送った。 (= Jeff sent a present to her.)

I made her a cake. (私は彼女にケーキを作った。 (= I made a cake for her.)

扱う文法の簡単な解説とその用例は、『ジーニアス総合英語』とも連携しています。

Output

Work it Out

Arrange the words and phrases in the parentheses to match the Japanese.

1. 彼女の笑顔はいつも私を幸せな気分にくれくれる。
Her smile (me / happy / makes / always).
Her smile _____

2. 父は毎週日曜日に朝食を作ってくれます。
My father (every Sunday / breakfast / us / makes).
My father _____

Model と Put It into Focus で学んだ内容が定着しているか確認できる問題です。

Unit や授業の導入に最適な扉を新設しました。写真の状況を説明したり、Unit のテーマに関する簡単なテーマトークを設けています。

Genius I Revised のおすすめポイント

- ① ページ構成を変更し、より親しみやすく・使いやすい紙面
- ② 「ちょうどいい」コミュニケーション活動の増補
- ③ 表現活動のための語彙力を育てる、語彙リストの新設

コミュニケーション

Input

Model 2

I'd like to tell you about my friend, Naoki. He is a 19-year-old college student. He is very kind and hardworking. When I played baseball in elementary school, he was our captain. Naoki taught me the importance of teamwork. Even though we don't play baseball now, I still call him "Cap."

notes: hardworking 勤勉 elementary school 小学校 importance 重要性 even though ... 一方で

Model 文の場面設定は日本語でわかりやすい。

Model 1 とはトピックや場面設定を変え、続く表現活動の参考にできる内容、構成を意識しました。

Think It Through

Put ✓ marks in the boxes below according to the passage above.

Who is Haruto talking about?

☐ his friend
☐ his teacher
☐ his father
☐ his cousin

What kind of person is Naoki?

モデル文の構成や展開を確認する項目。
モデル文の内容の理解を促し、文章や発表をどのように作ればよいかを学ぶことができます。

Output

Try It Out Op. 24 Useful Words, Phrases, and Expressions / Further Expressions

あなたは海外に住む友人に、自分の家族や友人を紹介します。その人についてのエピソードや人柄がわかるように書きましょう。

Step 1 Brainstorming: Write down your ideas using the following table.

Who do you want to write about?

Basic information about the person

☐ relationship: _____ ☐ what he/she does: _____

☐ age: _____

Episode about the person

☐ He/She (gave/taught) me _____

☐ He/She (made/bought) me _____

☐ He/She (_____) me _____

表現のための活動を、段階を踏んで進められる構成です。

Unit のまとめとして、発表したり文章を書いたりします。Model 1 で学んだ文法や、Model 2 で学んだ文章構成などが役に立ちます。





エンゲージメントの土台を作るコツとヒント



廣森 友人 (ひろもり ともひと)

明治大学教授

生徒の英語学習へのエンゲージメントを高めるには、エンゲージメントが深まる3つのプロセスに注目することが大切です（詳細は本連載 Vol. 6を参照）。本稿では、その中でも最初の段階である「エンゲージメントの土台作り」に焦点を当てます。エンゲージメントの概説書（Mercer & Dörnyei, 2020）では、全6章のうち最初の4章をエンゲージメントの土台に割いています。このことは、エンゲージメントの土台が学習成果を左右する重要な要因であることを示しています。

エンゲージメントの土台を築くには、まず教師と生徒、さらには生徒同士の良好な関係が不可欠です。“Teaching is all about relationships.”（Bolen, 2022, p. 8）という言葉があるように、信頼関係を構築することがエンゲージメント向上の鍵となります。例えば、私は大学の新学期が始まると、各クラスで集合写真を撮影し、写真に学生の名前を書き込みます。そして、最初の1週間で全員の顔と名前を覚えるようにしています。こうした取り組みを通じて、教師が生徒一人ひとりに関心を持ち、それを示すことで、信頼関係を深めることができます。信頼関係が築かれると、生徒は教師や周囲のフィードバックに耳を傾け、学習活動にも積極的に参加するようになります。

POINT 1

良好な人間関係を育むことで、生徒との信頼を深め、積極的な活動参加を引き出す。

エンゲージメントの土台を築く上で、教室に支持的な雰囲気を作り出すことも重要です。心理的に安全な学習環境が生徒のエンゲージメントを高めることは、これまでの動機づけ研究で繰り返し指摘されています。特に英語学習に苦手意識を持つ生徒は、プレッシャーや不安を感じやすい傾向があります。そのため、彼らがリスクを恐れずに挑戦し、自由にフィードバックを求められるような雰囲気を整え、肯定的な関係と学習体験を得られるように工夫する必要があります。

例えば、授業で英語の発表活動（プレゼンテーション）を

行う際、英語が苦手な生徒は消極的になりがちで、質問があってもなかなか手を挙げられないことが多いものです。このような場合には、事前に生徒からコメントや意見を募り、発表者にはそれらを発表で可能な限り取り上げるように指示する方法が効果的です。自分の意見が発表で取り上げられたり、それが解決されたりすることで、生徒は「自分も学習経験に貢献できている」と感じ、自信を高めることができます。

さらに、生徒同士が互いを信頼し、共感し、受容できる環境を作ることも重要です。例えば、クラス全体でルールやモットーを共有し、生徒が自然と他者を尊重する姿勢を持てるよう促すことが役立ちます。支持的で心理的に安全な教室環境を構築することで、生徒は安心して学びに向き合い、エンゲージメントを深めることができます。

POINT 2

教室に支持的な雰囲気を作り出し、生徒が心理的に安心できる環境を整える。

エンゲージメントの土台は、これまでの連載で取り上げた行動的、認知的、感情的、社会的エンゲージメントの4側面（詳細は Vol. 2～5を参照）に大きく影響します。土台がしっかりしていると、生徒は授業への積極的な参加や課題への熱心な取り組み（行動的エンゲージメント）、新しい情報の積極的な処理や批判的思考・問題解決能力の発揮（認知的エンゲージメント）、学習に対するポジティブな感情（感情的エンゲージメント）、他者との協力や社会的スキルの向上（社会的エンゲージメント）など、全体的に良い傾向を示します。エンゲージメントの基盤を築くことは、生徒がこれら4つの側面でバランスよく成長し、学習に積極的に取り組む環境を提供することを意味します。

参考文献

- Bolen, J. (2022). *ESL/EFL teaching practice and methodology: 20 years of experience teaching English in a single book!* Independently published.
 Mercer, S., & Dörnyei, Z. (2020). *Engaging language learners in contemporary classrooms*. Cambridge University Press. (マーサー, S・ドルニエイ, Z. (著), 鈴木章能・和田玲 (訳) (2022). 『外国語学習者エンゲージメント: 主体的学びを引き出す英語授業』アルク.)

Profile

主な著書に『エンゲージメントを促す英語授業：やる気と行動をつなぐ新しい動機づけ概念』『改訂版 英語学習のメカニズム：第二言語習得研究にもとづく効果的な勉強法』『動機づけ研究に基づく英語指導』（大修館書店）。学生のエンゲージメントを高めるために日々奮闘中！



英文法の「なぜ」?

朝尾 幸次郎 (あさお こうじろう)

英語研究者

Vol.07

hard と hardly の謎



Q 副詞 **hardly** が「熱心に」ではなく「ほとんど…ない」という意味なのはなぜ?

形容詞 **hard** は「熱心な」という意味です。しかし、「熱心に働く」は *work hard* と言い、*work hardly* とは言いません。どうして **hardly** は全くちがう否定の意味になるのですか。

A 副詞の **hard** と **hardly** で意味を使い分けようになったからです。

この **hard** と **hardly** はどちらも形容詞 **hard** に由来する副詞です。元は同じ意味だったのですが、その後、意味が分化し、使い分けられるようになりました。

形容詞と同じ形の副詞

今から1000年以上前の古英語の時代、副詞は形容詞に *-e* をつけた形でした。現代英語の形容詞 **hard** (かたい・熱心な) の古英語は *heard* (かたい・厳しい) で、副詞はそれに *-e* をつけた *hearde* でした。その後、この *-e* は落ち、副詞は形容詞と同じ形になりました。それが現代英語の副詞 **hard** (かたく・熱心に) です。形容詞と副詞が同じ形になったものには他に *slow*, *fast*, *quick*, *high* などがあります。

ところで、古英語には形容詞から副詞をつくる方法がもう1つありました。「…のように」という意味の接尾辞 *-lice* を形容詞につけるのです。古英語の形容詞 *heard* (かたい) に *-lice* をつけ、*heardlice* とすると「かたく」という副詞になりました。この *-lice* は後、*-ly* に形が変わりました。これが現代英語 **hardly** の由来です。

このようなわけで、副詞には〈形容詞と形が同じもの〉と〈*-ly* をつけたもの〉の両方ができました。そこで起きたのが意味の分化です。「高く」という意味の副詞には *high* と *highly* があります。このうち *high* は *fly high* (高く飛ぶ) のように具体的な高さについて、*highly* は *highly polished* (高度に洗練された) のように抽象的な意味に使い分けられます。

意味を分化させた **hard** と **hardly**

意味の分化は **hard** と **hardly** にも起きました。『オックスフォード英語辞典』は **hardly** の元来の意味を「力を込めて・厳しく・困難をもって」としています。そこからこれは「か

ろうじて」(*barely*) という意味で使うようになりました。

次はロバート・ルイス・スティーヴンソン『宝島』(*Treasure Island*, 1883) の例です。語り手で主人公の少年ジム・ホーキンス、医師のリヴシー、地主のトリローニの3人が宝島をめざす航海に向かうヒスパニオーラ号にはじめて乗り込み、船室に入る場面です。

... we had *hardly* got down into the cabin when a sailor followed us.

ぼくたちが船室に入ると、水夫が1人、後を追うようにやって来た。

「水夫が1人、後からやって来た時、ぼくたちは船室に(かろうじて) 入ったばかりだった」というのがそのままの読みです。つまり、3人が船室に入ると、それに続いてすぐに水夫がやって来たのです。この **hardly** は「かろうじて」という意味ですから意味は肯定的です。

「かろうじて」から否定の意味に

しかし、「かろうじて」というのは否定の意味と紙一重です。そこから **hardly** を否定の意味で使うようになりました。次は同じ『宝島』の例です。ヒスパニオーラ号の船中で乗組員(実は海賊の一味) イズリアル・ハンズが棒状の噛みタバコを1本取り出し、これを切ってくれとジムに頼みます。ハンズはジムたちを油断させようと、体を痛め、動けないふりをしています。次のハンズのことばの *haven't no knife* (ナイフを持っていない) は否定の *haven't* と *no* を重ねて使い、否定の意味を強調したものです。

“... I haven't no knife and *hardly* strength enough ...”

「ナイフもねえし、ろくに(←ほとんど) 力も入らねえ」

ここで *hardly strength enough* は否定の *no knife* と並んで使われており、この **hardly** は「ほとんど…ない」という否定の意味であるとわかります。

副詞 **hardly** は次のように意味を変化させました。

「力を込めて・厳しく」→「困難をもって」→「かろうじて」→「ほとんど…ない」

元来、**hardly** に否定の意味はなかったのですが、「かろうじて」という意味から否定の意味につながりました。

Profile

『英語の歴史から考える 英文法の「なぜ」』『同2』が大好評発売中。



教育ニュース

2024年

8月

2024年度の大学（学部）生は約263万人で、10年ぶりに減少。

9月

2023年度に不登校だった小中学生は約34万6千人、高校生は約6万9千人で、小中高・特別支援学校のいじめ認知件数は約73万3千件と、いずれも過去最多。▶PICK OUT①／22年度に通級指導を利用した小中高高校生は19万8343人で過去最多。／東京大学は25年度入学者から年間の学部授業料を現行の年額53万5800円から64万2960円に引き上げることを決定。

10月

東京工業大学と東京医科歯科大学が統合した「東京科学大学」が発足。／24年度ノーベル平和賞を日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）が受賞。

11月

大学教授らでつくる「入試改革を考える会」が大学入学共通テストで「情報Ⅰ」を出題することに反対する署名を阿部俊子文科相に提出。

12月

世界の小学4年生と中学2年生を対象にした23年度「国際数学・理科教育動向調査（TIMSS）」の結果が公表、日本は中学数学4位、理科3位など高水準を維持。／23年度に精神疾患で休職した公立学校教員は7119人で、初めて7千人を突破。／25年度予算案が閣議決定、教職調整額の4％から5％への引き上げで予算を計上、30年度までに無条件で10％まで引き上げへ。▶PICK OUT②／24年度の教員採用試験の採用倍率は3.2倍で、3年連続過去最低。

PICK OUT

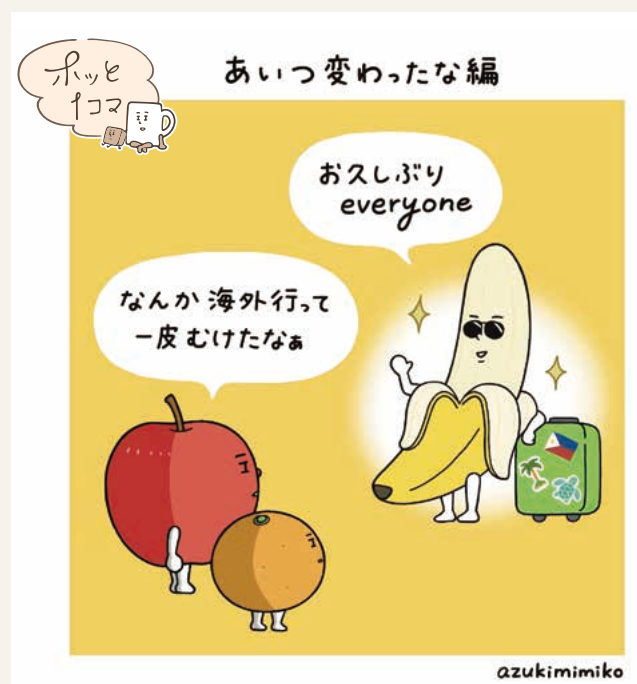
① 不登校34万人超で過去最多、23年度文科省調査

23年度に不登校だった小中高高校生は41万人超と11年連続で増加し、過去最多となったことが文科省の調査でわかった。前年度に比べ5万5千人余り増えるなど、不登校をめぐる深刻な状況が浮き彫りとなった。不登校は病気や経済的理由ではない要因で年間30日以上登校しない状況を指す。23年度に全国の小中高校で不登校とされた児童生徒は前年度に比べ5万5629人増えて41万5252人だった。内訳は、小学生13万370人（前年度比2万5258人増）、中学生21万6112人（同2万2176人増）、高校生は6万8770人（同8195人増）。高校生全体に対する不登校生徒の割合は2.35％で、その状況については、「学校生活に対してやる気が出ない」が32.8％で最も多く、次いで「生活リズムの不調」が26.7％、「不安・抑うつ」が16.7％などとなった。一方、いじめの認知件数は、前年度より5万620件増え、計73万2568件で過去最多を更新。内訳は、小学校58万8930件、中学校12万2703件、高校1万7611件、特別支援学校3324件だった。いじめにより自殺や不登校に関わる「重大事態」に認定された件数は387件増の1306件で過去最多となり、自殺した児童生徒は計397人で過去3番の多さだった。

② 教職調整額4％から5％へ、25年度文科省予算案

2025年度予算案が閣議決定され、文科省の一般会計総額は24年度比645億円増の5兆4029億円となった。このうち、文教関係予算は4兆1218億円。焦点となっていた公立学校教員の残業代として月給の4％を上乗せする「教職調整額」については、年末に阿部俊子文科相と加藤勝信財務相との閣僚折衝が行われ、時間外勤務の削減などの条件をつけずに現在の月給の4％から30年度までに段階的に10％に引き上げるとし、25年度は5％とすることで合意。これを受け、調整額5％への引き上げ分を含めた教員給与に充てられる義務教育費国庫負担金に1兆6210億円を計上した。また、閣僚折衝で、小学

校の教科担任制の拡充などを含めた教員定数の改善が話し合われ、予算案に5827人の定数改善も盛り込まれた。具体的には、21年から段階的に進めてきた小学校での35人学級を全学年で実現するほか、教科担任制を4年生にまで拡大し、さらに、中学校の生徒指導担当教員を増やすなど人的支援の充実を図る。阿部文科相は閣僚折衝後の記者会見で、教員の処遇改善が実施されることを評価した一方、目指していた一度での13％への引き上げに至らなかった点を踏まえ、「厳しい学校現場の状況を考えると及第点ギリギリ」とし、教員の環境整備の充実に向けた取り組みを加速させていく考えを示した。



BOOKSHELF

自著紹介



B5判／210pp.
定価2,860円（税込）
ISBN：978-4469246773
2024年

『英語授業プリント改善講座』

萩野俊哉 著

授業で使うプリントを見直して、よりよい授業につなげましょう！

皆さんは英語の授業でプリントを使われていますか。そして、それはご自分で作っておられますか。生徒の英語学習において、授業プリントはかなり重要な役割を果たしているはずです。一方で、私たち教師は、どれくらい自覚的にそれらのプリントを吟味して作成し、また、十分に使い切っているでしょうか。

本書は、特に英語授業において使用されるプリントについて、その作成と使用のあるべき姿を示すガイドブックとなることを意図して書いたものです。日々の授業などで使うプリントを改めてしっかりと見直し、生徒にとってより役に立つものにするにはどうしたらよいのか。その具体的な指針や方法と、豊富な具体例を示しました。教壇に立ってまだキャリアの浅い先生方は、本書を読むことで多くの知見を得られることと思いますし、いわゆるベテランの域に入っておられる先生方も、本書をお読みいただければ、きっと新しい発見があることと期待しています。

（新潟県中越高等学校長 萩野俊哉）

自著紹介



四六判／200pp.
定価2,200円（税込）
ISBN：978-4469246759
2024年

『英語学習の「新常識」』

和泉伸一 著

新しい視点で広がる英語学習の世界

「社会的でないと英語のコミュニケーション力は身につかない」「ネイティブスピーカーが絶対的な目標」「外国語は子どものうちに学ぶべき」「話す力を伸ばすには、とにかくアウトプットを増やすべき」「まずは受験勉強、それからコミュニケーションの習得」——こうした英語学習にまつわる“常識”を一度でも疑ったことはありますか？ 本書では、第二言語習得論の研究知見をもとに、これらの思い込みを冷静に検討し、新たな視点と学習・指導方法を提案します。情報が溢れる現代だからこそ、本当に正しいことは何か、自分に合った学習法は何かを見極めることが、より効率的で満足度の高い英語学習への近道です。本書で提案する「新常識」は、あなたの学びや指導をより楽しく実りあるものに変えるきっかけとなるでしょう。これまでの“常識”を超えて、新たな可能性を探ってみませんか？

（上智大学教授 和泉伸一）

自著紹介



A5判／264pp.
定価2,860円（税込）
ISBN：978-4469246742
2024年

『名作英文解釈精選』

八木克正 著

入試問題の出典になった古典作品の英語を徹底解説

明治から昭和前半にかけて大人気だった入試過去問集の問題ひとつひとつの出典を、数年かけて調べました。文脈から切り離され干物になった問題文をもとの文脈に戻し、生きた文章として理解したいという願いからです。原典を書き換えた問題文が多く、出典調査は困難を極めました。判明した出典は、18世紀末から20世紀初頭の誉れ高い名著ばかりです。この時代の文体、句読法、文構造、語句の意味の特徴、それに、代名詞の指示対象がわかれば、当時の英文とて難攻不落ではありません。第1章で文脈から切り取られ、改変された入試問題の実態を述べ、第2章でこの時代の英語の文体・句読法・文法・語法・語義の特徴をまとめました。第3章で名作の名場面からとった文章20編の作品、文法、語法を徹底的に解説しました。作品がハイレベルなために、解説も自ずとハイレベルになりました。古典的名作を通じて、英文解釈の奥深さをぜひ味わってください。

（関西学院大学名誉教授 八木克正）

英語を身に付けるには

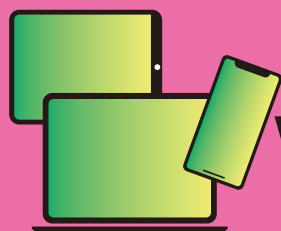
基礎から

英語初級～
大学入試まで

New

ベーシック ジーニアス 英和辞典 第3版

[編集主幹] 原川博善・畠山利一 B6変型判・1,890頁・2色刷 定価3,190円(税込)

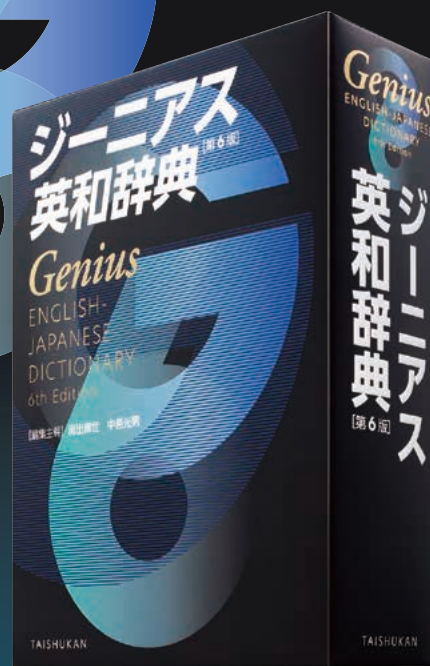
↑詳しい情報
はこちら

PC・タブレットやスマホで引ける

リッチな Web辞書

*汎用ブラウザでWebサイトにアクセスできる端末が必要です
*インターネットメールが受信できるアドレスが必要です

英語を深く学ぶには



ジーニアス 英和辞典 第6版

[編集主幹] 南出康世・中邑光男 B6変型判・2,448頁・2色刷 定価3,960円(税込)

↑詳しい情報
はこちら

PC・タブレットやスマホで引ける

シンプル Web辞書

*汎用ブラウザでWebサイトにアクセスできる端末が必要です
*インターネットメールが受信できるアドレスが必要です

大修館書店

大修館英語通信 What's New!

2025年4月1日発行 第9号

編集人：『大修館英語通信 What's New!』編集部

発行人：鈴木一行

発行所：株式会社 大修館書店

〒113-8541 東京都文京区湯島2-1-1

電話(03)3868-2292(編集部) / (03)3868-2651(営業部)

[出版情報 URL] <https://www.taishukan.co.jp>

[振替] 00190-7-40504

表紙・本文デザイン：CCK

表紙イラスト：オザワミカ

印刷・製本：文唱堂印刷株式会社

〔R〕本誌のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上の例外を除き禁じられています。本誌を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内での利用であっても著作権法上認められておりません。